

# 読書

「日本都市戦災地図」  
は、第一復員省編、原書  
房刊。一九四五(昭和二  
十)年の太平洋戦争敗戦  
時に作成された「全国主  
要都市戦災概況図」を収  
集し、複製刊行した資料  
で、県内では岐阜、大垣  
両市の地図が収められて

もないまま、約三カ月と  
いう短期間で作られた。  
当時、海外に残された  
日本人の数は、軍人、軍  
属、一般人を合わせて六  
百六十万人以上。民族大  
移動とも言うべき規模の  
これらの人々の帰国、復  
員・引き揚げは、当時の

## 県図書館に行こう

こんな情報<sup>①</sup>が待っている

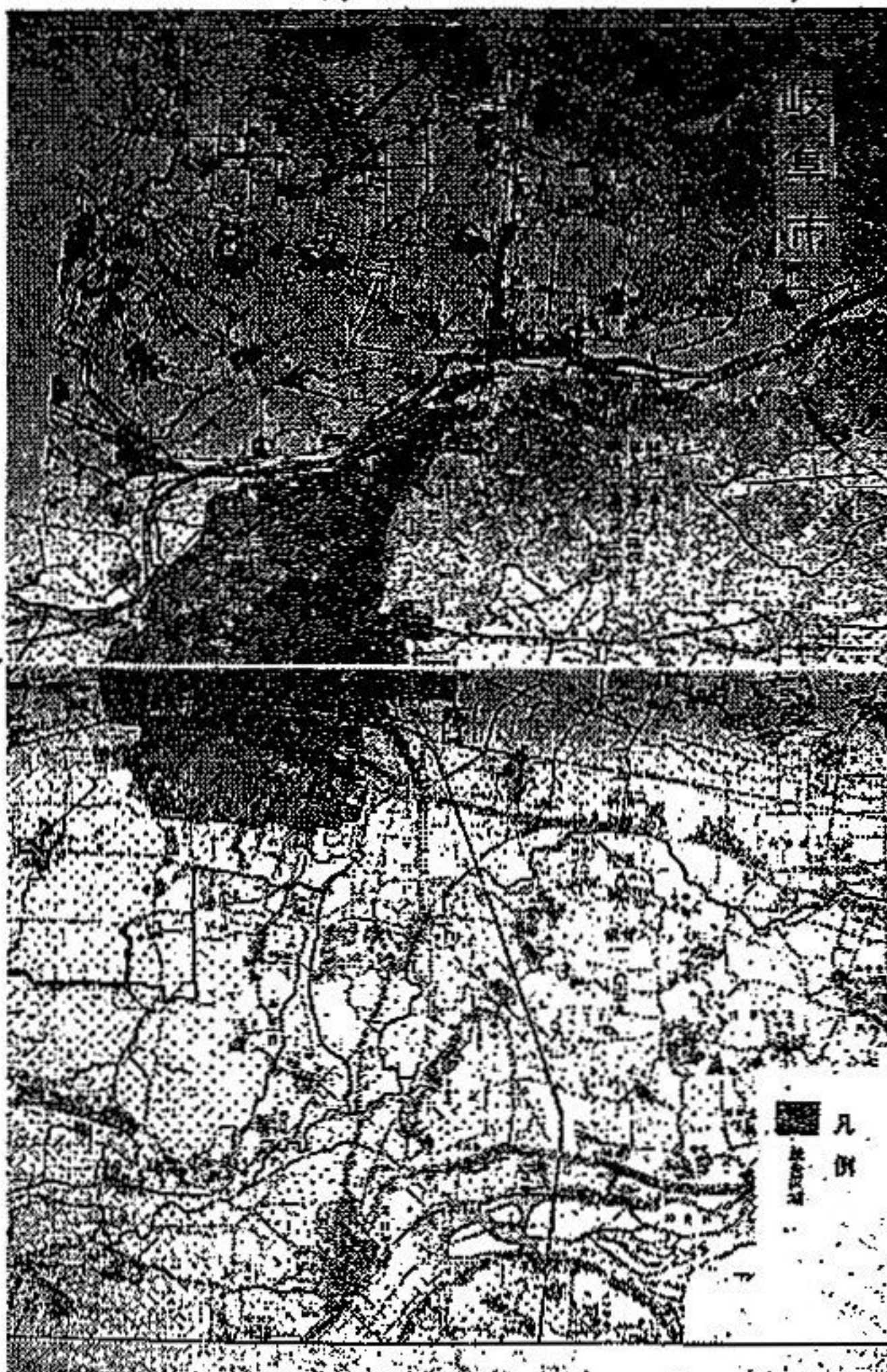
いる。

見開き、あるいは折り  
込みでとじられた、縮尺  
も詳細の度合いも異なる  
百五十八枚の地図。中に  
手書きのものも混じる。  
これらの地図は敗戦直後  
の「引き揚げ」という大  
事業に備え、規格の統一

国家的緊急課題だった。  
国内十四港が引き揚げ  
港に指定され、援護所や  
連絡所が置かれ、全国の  
都道府県庁には引き揚げ  
相談所も設けられた。そ  
れらの場所に、この「全  
国主要都市戦災概況図」  
は貼り出された。

## 引き揚げ者の関心高く

日本都市戦災地図



「日本都市戦災地図」のうち「岐阜市」のページ

作成機関は、陸軍省の  
残務整理を担当としてい  
た第一復員省。大規模な  
移動による暴動を恐れた  
占領軍当局の政策の一環  
として、引き揚げ者の速  
やかな帰還を促すことが  
その目的だった。だが、  
序文に「内地大陸の質問  
第一声が概ねこのことだ  
ある」とあるように、引  
き揚げの人々が何よりも  
案じていた、故郷の安否  
を告げることでもあっ  
た。  
本書の資料解説のペー  
ジには、食い入るように  
この地図を見る人々の写  
真が載せられている。  
戦後、戦争を主題とし  
た数多くの出版物や映画  
が生み出される一方、記  
憶は風化し、その現実味  
は失われつつある。しか  
し、この記録を手にとる  
時、戦争は明らかな事実  
としてそこにあることに  
気づく。県内の空襲を記  
録する会などがその後刊  
行した資料には、微細な  
部分で焼失地域の異なる  
図面が掲載されてい